

2018年3月12日掲載

歯科における「放散痛」 心筋梗塞の可能性も

先日、男性俳優が急性心不全で亡くなったことは記憶に新しいことです。急性心不全とは心臓のポンプとしてのはたらきが急速に低下して、全身の血液の流れが滞る状態です。発症の危険因子となるのは高血圧、糖尿病、高脂血症で、喫煙、肥満、偏った食事、運動不足、ストレスなどがより危険度を高めます。

心不全に至る前の前兆として、心臓の動きが悪くなることで、それを防ぐために交感神経が異常に作動してさまざまな症状が引き起こされます。具体的には胸痛や胸部の苦しきのほか、肩から上腕にかけての痛み、嘔吐（おうと）、下顎（かがく）痛、歯痛、腹痛や腹部不快感など、原因の臓器以外に感じる痛みもあります。

これらの原因の臓器から離れたところに感じる痛みを「放散痛」と言います。発見が遅れる理由にもなることから、心筋梗塞で怖いのはこの放散痛とも言われています。心筋梗塞の放散痛で特に多いのは、歯、顎、左肩、みぞおちの痛みです。歯や顎に痛みを感じて歯科医院を受診して、レントゲン撮影や口腔診査をしても全く異常（むし歯や歯周病、歯根破折など）が認められない時は要注意です。

ではなぜ心臓とは関係のない離れた場所が痛むのかと言うと、簡単に言うと神経の勘違いによるもので、神経が混乱してほかの場所の痛みとして出すためです。

歯や顎などに痛みを感じたら単なるむし歯だろうと放置せず、かかりつけの歯科医院を受診しましょう。